

(様式1)

令和5年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立両国小学校
校長名	渡邊 圭三

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・全ての学年、領域で全国平均をほぼ上回る。5年社会は、全ての観点で全国平均を10P以上上回る。・観点別で状況が良いのは、国語の「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」、算数の「思考・判断・表現」で、全国平均を5P以上上回る。国語の「主体的に学習に取り組む態度」で、4つの学年で全国平均を10P以上上回る。・基礎・活用別では、全ての学年で全受検教科の平均正答率で全国平均差が基礎より活用がほぼ上回る。・教科全体の経年変化で伸びているのは、3年国語・算数、4年算数である。・D・E層の割合の経年比較では3年算数、6年算数で各3.9P、1.8P減少している。	<ul style="list-style-type: none">→英語の「主体的に取り組む態度」平均正答率は全国平均より▲4.2Pで、他の教科と比較して数値が低い。・領域別で、国語「読むこと」の平均正答率は、2.3年では全国平均より11P程度上回るが、4～6年では3～7P台の範囲にとどまる。→基礎・活用別では、4年理科、6年英語で、基礎より活用が下回る。→5年、6年の理科で伸び悩んでおり、ともに5～7P下降している。→同比較、4年、5年の算数では上昇し、割合の減少に至っていない。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none">・「ノートの取り方について自分なりの工夫をしている」の肯定率は5年83.1Pで、全国平均より8.1P上回る。・「友達の意見を聞いて新しいことに気付いたり自分の考えが深められたりして面白い」の肯定率は5年74.7Pで、全国平均を4.9P上回る。・「タブレット端末等を使って話し合い活動が深まる」の肯定率は4年63.0P、5年65.1P、6年77.0Pと学年進行に伴い上昇傾向にある。・「学校の授業で積極的に発言している」の肯定率は4年70.4P、5年67.5Pで、ともに全国平均を上回る。	<ul style="list-style-type: none">・「不思議だな、どうしてだろうと思ったことを調べている」の肯定率は、学年進行するごとに低下し、2年66.7Pに対して6年48.6Pである。・「テストで間違えた問題を後でやり直している」の肯定率は2年93.8Pで、学年進行に伴い低下傾向にあるが、5.6年で上昇し8割を超えている。取組を徹底させ、習慣化を図りたい。・「考えたり頭を使ったりすることが好き」の肯定率は4年59.3P、5年62.6Pに対して、6年51.4Pと5割程度にとどまっている。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・特に低学年では、発言や発表への意欲は高い。早く自分でやりたい、気付いたらすぐ発言したいという児童が多い。 ・算数の問題の答えのように明確な正誤がある問いに対しては自信をもって意欲的に発言する。 ・授業の導入を工夫したり、問題解決型学習を取り入れたりして、昨年度に比べ、学習意欲が高まっている。 ・休み時間や放課後などに、個々に応じた指導を積極的に行い、基礎学力の向上が見られている。 ・朝学習や月1回程度のピンポイント学習の際、振り返りシートを活用した取組を継続的に行い、全国平均を大きく増加している。 ・校内研究で語彙を増やしたり読みを深めたりする取組を行い、国語のA層の児童が増加している。 ・答えを求めるときや自分の考えを書くときに、根拠を示すことを大切にし、思考・判断・表現の観点の正答率が高まっている。 	<ul style="list-style-type: none"> →簡単に答えが求められるものを好む児童、できたことに満足する児童が多く、よりよくすることや時間をかけてじっくり取り組むことを苦手とする児童が多い。 ・自信をもって発言する児童と、そうではない児童があるので、発問や発問前の机間指導を工夫していく必要がある。 ・一斉指示や自分の力だけでは、取り組めない児童がいる。また、取り組むまでに時間がかかる児童が多くいるため、個別指導をしている。 ・文章の読み取り、学習内容に対する自分の考えをもつこと、それらを伝えること。 ・授業中に自分の考えを発表しようとする児童は多いが、自分の考えを他者に分かりやすく説明することが苦手な児童が多い。自分の考えと比較したり、付け足したりしながらより良い考えを生み出そうとする思考力に課題がある。 ・同じ児童が発言していることがあり、ノートに考えが書けていても、自信がもてず挙手ができない児童が多い。また発表する際、声が小さくなってしまう児童もいる。
<ul style="list-style-type: none"> ・宿題はほとんどの児童が忘れずに提出している。多くの児童が家庭の協力のもと学習する習慣が身に付いている。 ・宿題をやっていない児童については休み時間や放課後を使って学習させることを繰り返し行い、提出できる児童が増加した。 	<ul style="list-style-type: none"> →急いで行って雑になっている児童が見られる。 ・課題を終わらせることが目的化しており、知識の定着に結び付いていない。その結果が漢字50問テスト等にも反映されている。 ・宿題を溜め込んでしまい、短期間に集中して取り組むという児童がおり、学習習慣が定着しているとはいえない。保護者の理解と協力が必要である。
<ul style="list-style-type: none"> ・高学年では、塾に通っている児童が多いこともあり、家庭学習時間は長い。 	<ul style="list-style-type: none"> →日によっては学校の宿題にまで手が回らず宿題や課題提出が遅れてしまう児童が数名いる。 →C・D層の児童には、宿題を全く提出しない児童もいる。熱心に取り組んでいる家庭が多い一方で、家庭学習に関する温度差が大きい。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

上記の状況を踏まえ、本校がこれまで継続してきた「両国小・学力向上6つのチャレンジ」を修正を加えながら全校で取り組む。PTAや地域の方にご協力いただき、全学級の児童机・椅子の脚部分にテニスボールを装着し、消音効果を高めて聴覚刺激を低減し、学習に集中できるようにした。また、教室前面を遮光カーテンに置き換え、ICT機器がより効果的に活用できるよう、環境整備に努めている。

(1) 必ずテスト直しをすること（高学年では自己分析と学習計画も）

全学級で取り組んだはずであるが、「いつもやり直している」という意識の児童は学年進行するにつれて低下している。「やらなくても済んでいる」状況があり、個人差・学級差が生じている。第5・第6学年においては、直すだけでなく、誤答の原因を分析させ、そのためにどのような学習が必要なのか、主体的に計画を立てられるように指導する。

(2) 辞書をいつでも引けるようにすること

3年生以上は一人一冊、自分の国語辞典を学校に持って来ている。「辞書袋」を机の横にぶら下げて、国語以外の時間にも必要な時には使えるようにしているとともに、家庭にも呼びかけ、辞書に親しむ環境を整えている。高学年の児童の語彙力は極めて高いので、他学年にも波及できるように、さらに習慣化するよう指導する。低学年については自分で辞書を引くことが難しいので、学級で語彙を増やせるような活動を行っている。

(3) 地図帳をはじめ様々な地図や地球儀等を活用すること

「いつでも地図帳を」を呼びかけ、机の中にいつでも地図帳を入れておき、社会科の授業に限らず地名を見たらすぐに地図帳で調べるようにしている。また、タブレット端末で地図パズル等のアプリを使えるように環境を整え、児童が楽しく地図に触れる場面を増やすようにする。地球儀も身近に置き、活用を図る。

(4) 理科実験OJT及び理科室や学校園等の理科学習の環境整備

これまでと同様に「理科実験OJTの実施」「理科室及び準備室等の環境整備」等、理科学習の充実を図る。特に「理科実験OJTの実施」においては、実験における安全管理を最大の重点としつつも、理科の問題解決型学習の進め方についても共通理解を図り、授業力の向上を目指す。

(5) 「両国小 板書・ノート作りの手引き」の活用と加除修正

「両国小 板書・ノート作りの手引き」を学力向上委員会と国語・社会・算数・理科担当が協働で作成し、全教員に配付された。その手引きをタブレット端末内で常時閲覧でき、授業改善に活かすことで、全学年の板書やノート指導が充実してきた。さらに、加除修正を加え共通理解を図る。

(6) 「ピンポイント学習」の継続実施

各学年の苦手分野を朝学習で一斉に取り組む「ピンポイント学習」(月1回)を確実に実施したことにより、学力状況調査の結果に結びついた。調査結果の分析を基に苦手分野を明らかにするとともに、全学級が同時に「ピンポイント学習」に取り組み、継続することが更なる成果を生み出す

すことになる。

(7) 校内研究の取組

校内研究では、研究主題を「自分の考えをもち、伝え合う児童の育成」、副主題を「言葉や叙述を大切に読む活動を通して」とし、国語科の研究を深めていく。

授業づくりにおいては、区学習状況調査、児童の意識調査を基に児童の実態を把握した上で、低学年から高学年までの系統性がある指導計画を目指している。また、全校で取り組むことができる常置活動を検討・設定し、児童に言葉の力を付けられるようにする。

3 「令和6年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・ D・E層をC層に引き上げること。B層の上位をA層に引き上げること。
- ・ 意識調査において、「テスト直し」「自分で調べる」の完全定着を全学年8割以上に高めること。
- ・ 令和5年度の学習状況調査で平均正答率が低かった問題を「ピンポイント学習」で克服すること。